



この夏はとても暑い日が続いていますが、あつという間に9月ですね。9月といえば、中秋の名月。月見団子は地方によって異なるそうで、古くは秋に収穫期を迎える里芋や栗、団子などを供えて豊作を祈る行事からきているそうです(諸説あります)。食べ物のお話をしていたらお腹がすいてきました。食欲の秋ですね。地域連携担当の力です。今回は、本学教育学部主催の「學術の日」についてレポートします。

「子どもからはじまる保育・教育」がテーマとなった、今年の學術の日。本学の教員はもちろん、登壇者には学校現場から本学大学院を修了した小学校の教頭先生や外部講師をお招きし、

一般参加者にもお越しいただくなどして、活発に開催されました。

子どもたちに「問い」をもたせることで能動的に考える授業が求められる一方、現場の先生たちはどのようにして子どもたちの興味から「問い」をもたせて授業を展開するか。これらの課題に対してとても苦労されていることがわかりました。

今でこそ、このような授業が増えているようですが、自分子ども時代を振り返ると、常時「問い」を持ち続けることなどきつとできなかったと思います。「ぼーっとすることも子どもの権利。問いを出せることを制約しない。」という外部講師の方の言葉が、とても印象的でした。

改めて、今回のタイトルでもある「子どもからはじまる保育・教育」に立ち返り、子どもが起点となることの重要性について再認識したのでした。



●新施設レポート・前編

みなさん、はじめまして。総務課で施設担当をしている宮下です。今回は、9月1日にオープンした福山市立大学の新施設「小松安弘記念館」をご紹介します！

同館は、食品容器製造の株式会社エフピコ(本社：福山市)創業者で福山市名誉市民 故小松安弘様から「福山市の未来を担う若者の人材育成のために使ってほしい。」と福山市にいただいたご寄附を基に整備したもので、市民の皆様と大学の新たな交流拠点を目指しています。

「教育研究棟」「福利厚生棟」の2棟が2階のデッキでつながり、屋外には屋根付き運動場を併設しています。教育研究棟は、産学官交流の拠点となる教育研究交流センターや、最大定員160人の講義室を配置。福利厚生棟には子育て支援のイベントに使える多目的研修室、学生交流サロンや課外活動に利用できるスペースなどを設けています。

施設建設中には、道行く人たちが「これはなんの施設だろう？」と目を向けているのをよくお見かけしました。9月1日に無事にオープンを迎え賑やかになった小松安弘記念

館、ますます道行く人たちの視線的になるのが楽しみです。

次回は、同館内の各部屋について詳しく紹介します。楽しみに！



FUKUYAMA CITY UNIVERSITY

福山市立大学

教育学部、都市経営学部の2学部で構成される公立の4年制大学。自治体や地域社会、地元企業との連携を深め、持続可能なまちづくりに寄与する人材の育成をめざしている。

【問い合わせ先】

福山市立大学 事務局総務課 連携担当
☎ 084-999-1112 ✉ soumu@fcu.ac.jp



研究シーズ集